

夫の転勤に伴って転居や転職を繰り返す「転勤妻」。友人関係や仕事、子供の教育などをゼロから構築し直すことに葛藤を抱える場合が少なくない。女性が結婚・出産後も働き続けられるよう保育所の整備などが進められているが、夫の転勤で妻のキャリアが中断するケースも。転勤を伴う人事を企業が再検討すべき時だとの声も上がっている。

(加納裕子)

人間関係再構築、キャリア中断…

「本音は帰りたい」

「子供が登校拒否になり、別の高校に行っています。私も大阪弁で何を言われているのかわからず、職場でいじめられました」

大阪府豊中市のパート、神脇清子さん(51)はそう話した。1月、同市内で開かれた「転勤族の集い in 豊中」の定例会。参加した12人全員が転勤族の妻だ。

神脇さんは鹿児島県出身。4年前、夫の初の転勤で中学3年生だった長女と大阪に転居した。「言葉もあわないし、いろいろあったみたい」。自身も職場でいじめられ、2年後に転職した。「九州の言葉は英語みたい」といわれますが、それが私。本音は九州に帰りたい」。同会の会長を務める山添好美さん(52)も結婚以来、5回の転居を繰り返してきた。「旦那さん以外にしゃべる人がいなくて孤独を感じる人が多いはず。友人を作って情報交換するだけで気は楽になるので、会に遊びに来てほしい」と話す。

就職へスキル磨く

孤独だけでなく、目標や生きがいを見失うこともある。そんな妻のキャリアアップを支援しようと昨年3月、転勤族の妻

葛藤抱える「転勤妻」

による全国組織「転勤族広報大使」(TKT48)が発足した。各地にチームがあり、ネット上では約千人の妻たちが参加。出身地や転勤先の地域情報を発信するほか、イベント企画部やキャリア企画部、美術部なども設け、妻たちが起業や就職に向けたスキルを磨くことに主眼を置いていく。

TKT48のプロデューサー、奥田美和さん(39)は「まずは先輩の転勤妻から話を聞いてほし

い。自分なりに転勤生活を楽めるよう最初の一步を踏み出して」とメールを送る。

TKT48の関西マネージャーを務める松村真弓さん(37)は兵庫県西宮市で、未就園児と母親が集まる「転勤族ママ&キッズ探検隊 in 西宮」を主宰。会合では数人の世話役がてきばきと進行し、親子の歓声が絶えない。「それぞれ責任ある仕事をしてこられた方ばかり。会で役割を果たしていたことが、子供が手を離れて再就職するときに一つのキャリアになると思います」と話す。

デメリット大きく

石破茂地方創生担当相は今年1月、企業での転勤の実態調査を行う考えを表明。「家族のあり方、出生率の向上において転



新聞を丸めたボールを鬼に投げて楽しむ子供たち。「転勤族ママ&キッズ探検隊 in 西宮」は子連れで楽しめる企画を用意=1月30日、兵庫県西宮市

勤が何か作用しているのではないか」と話し、働き方改革の一環との認識を示した。

「働く女性が増え、男性も育児や介護などの制約を抱えるケースが増えた今、転勤のデメリットは大きい」というのは父親を支援するNPO法人「ファザリング・ジャパン」(東京都千代田区)理事の荒木正太さん(32)だ。

転勤には希望者が少ない部署への持ち回りや「課長昇格時には地方へ」といったルールによるものも。全国展開の企業だけの問題ではなく、地方の企業にも、戦力に育てた女性を夫の転勤で失うことへの問題意識が広がっているという。

夫にとっても妻や子供にストレスを与える転勤は課題だ。荒木さんは「社員が自分の転勤先やタイミングを選べる社内公募制度や、転勤しないキャリアを選択できるような人事制度が広がれば」と訴えている。



「転勤族の集い in 豊中」の定例会で語り合う女性たち。似たような体験に「そうそう」とつなずく人も多い。1月17日、大阪府豊中市